

第11回 「なぜなぜ分析」ワンポイント応用編

ここでは、拙著の本に紹介していない応用編について、紹介したいと思います。（ただし、いつか活字になるかも(?)しれません。お約束できませんが……）

あわせて、「なぜなぜ分析」の基本については、ぜひ当社ホームページ、インフォメーションに記載の書籍等をご覧ください。

2006年 4月 5日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉 仁志

jin-ogura@management-dynamics.co.jp

「現象」は事実だけしか書いてはいけない

すでにご承知とは思いますが、なぜなぜ分析における「現象」は、現時点で判っている事実しか書いてはいけません。

私たちが日頃使っている表現の中には、推定の域を脱しないものが多く潜んでいます。

例えば、先程まで使っていた携帯電話が、今手元にないということが起こったとします。

さあ、皆さんはこれを探さなければなりません。

この場合、「現象」をどのように表現しますか。

下記の中から選んでください。

1. 携帯電話をどこかに置き忘れた
2. 携帯電話をどこかに落とした
3. 携帯電話が、いつも入れているポケットにない

皆さんはもうおわかりですね。

答えは 3. です。

会議などでも良くあることなのですが、私たちは、ともすると事実と推論をごちゃ混ぜにして議論していたりします。

そんな会議と同じように分析したのでは、的確な犯人を見つけ出すことが難しくなることは間違いありません。

先日あるメーカーであった表現ですが、「〇〇が固化した」という表現が「現象」に記述されました。

しかし、よくよく聞いてみると、実は「固化した」というのはあくまで推論であるということがわかりました。

実際には、「〇〇と△△の間の圧力に差が生じた」ということでした。

皆さんの実施された分析の中にも、「現象」の欄に推論が記述されていないか、ぜひチェックしてみましよう。

以上